

## もくじ

- P.1 第38期アジア社会福祉従事者研修生5名が研修を修了
- P.5 第39期アジア社会福祉従事者研修スタート
- P.6 日韓台会議、スタディ・ツアーを実施
- P.8 国際交流・支援活動会員募集のご案内 ほか

## 研修での学び、ネットワークを 日本と母国の福祉の発展へ —第38期アジア社会福祉従事者研修生5名が研修を修了—

第38期アジア社会福祉従事者研修生（5か国5名）が、約11か月間の研修を修了しました。2025年2月21日に開催した修了式には、マレーシア、スリランカ、タイの各駐日大使館からの来賓のご臨席のもと、研修にご協力をいただいた社会福祉法人・施設等の関係者、国際交流・支援活動会員の皆さまをはじめ、約50名にご出席いただきました。

修了式では、5名の研修生が日本語で研修成果等をスピーチし、研修での学びや日本と母国の福祉に関する気づき、帰国後の母国の社会福祉を向上させるための目標などを話しました。

本研修事業は、研修生の社会福祉に関する学びの機会だけでなく、修了後も続くネットワークを築き、日本とアジア各国が学び合い、それぞれの国の社会福祉の発展に寄与することを目的としています。修了生となった5名には、今後も本会の国際交流・支援事業を通じ、日本と各国をつなぐ要として、母国の福祉をリードする役割を期待しています。



## 約 11 か月の研修で学んだこと、気づき ～ 修了式のスピーチより～

第 38 期研修生が日本で学んだこと、日本の福祉に関する気づきについて、修了式のスピーチの内容をまとめ、紹介します。



**チョイさん**  
崔 珍 姫  
Choi Jin Hee  
(韓国)

韓国では、地域住民や外国人の家庭を対象としたサービスの企画に関わっていました。日本の多様なサービスや、事業の運営方法を学ぶことがこの研修に参加した目的です。

研修では、母子生活支援施設、障害者支援施設など、母国で経験したことがない分野の福祉を学ぶ機会があり、私の福祉に対する視野が広がったと感じます。利用者のニーズを把握する方法にも工夫があると学びました。

また、日本の福祉施設が行う地域福祉の活動が印象的です。地域の団体や住民が協力する場としてお祭りを企画していたり、他法人・施設と協力して活動をしていたり、さまざまな方法で地域福祉に取り組んでいることを学びました。帰国後は、今回の研修での経験を活かして地域と協力して活動する方法を考え、実践し、韓国の社会福祉を発展させたいと思います。



**ファンさん**  
范 倚 寧  
Fan Yi-ning  
(台湾)

日本と台湾が置かれる状況は似ている部分が多く、日本の社会福祉は、台湾のなかで学びの対象と考えられています。

日本の介護サービス事業の仕組みでは、「加算制度」が印象に残りました。台湾にはない仕組みですが、サービスの質を向上させ、利用者のニーズに応える動機になると思います。母国の勤務先であるサ高住で研修し、日本と台湾の違いを発見できたことも良い経験です。外部資源の活用、ISO9000 シリーズの認証に向けた取組など、母国に活かせる気づきも多くありました。

また、台湾では、地域福祉を議論すると福祉施設の役割が除外されがちです。日本で、福祉施設が地域福祉や共生社会を推進していく役割を担っていることに驚きました。

帰国後は、日本の介護サービスや地域福祉について整理するとともに、勤務先で ISO9000 制度の導入による質の向上、福祉施設としての地域福祉への推進に取り組みたいと考えています。



**アイリーンさん**  
Rodngam Maneerat  
(タイ)

日本の社会福祉は、すべての年代に対する制度やサービスが整っていると思います。タイでは、日本ほど福祉サービスが充実していません。また、例えば高齢者を対象としたなかにも、介護保険施設、デイサービス、リハビリセンターなど、多様なサービスが展開されていることに驚きました。

研修のなかで、利用者の心や精神的な自立を大切にしたい支援の大切さを学びました。障害者が就労を通じて誇りを持つこと、虐待された子どもの心の癒しと回復を助けることなど、その手法をタイに持ち帰りたいです。

帰国後は、子どもを保護するための法律について学び、子どもの成長を守るための持続可能なシステムを作っていきたいと思っています。また、タイの福祉関係者と協力しながら、さまざまな福祉システムの改善を政府に提案したいです。





マレーシア、スリランカ、タイの各駐日大使館からご臨席をいただきました



全社協 村木厚子 会長より、修了証書が授与されました

マレーシアでは、障害児の早期療育と保護者へのサポートを行っています。日本の研修では、職員の専門職としての役割と親のような気持ちのバランスのとり方、利用者の利益を最優先に考えるチームづくりなどを学びました。研修で気づいたキーワードがあります。

1つ目は「バリアフリー」で、物理的な面だけでなく、自分が望む生活を送るためのバリアフリーな支援が大切です。さらに「ユニバーサル」な支援へのアイデアも浮かびました。いつか、“バリア”がない社会をめざしたいと思うようになりました。

2つ目は「共感」です。福祉に関する技術は進歩していますが、サービス提供者と利用者の共感は簡単には作れません。

3つ目は「ご縁」です。研修を通じ、さまざまな国の現状や福祉制度を学びました。異なる言語、文化、背景がある研修生のなかでインクルーシブなコミュニティができたことに感動しました。



**ジョアンさん**  
LEE JOANNE, JO ER  
(マレーシア)

私は、寺院にあるネセック財団で児童養護施設などの管理・運營業務に関わっています。母国での活動に活かせるよう、日本の児童福祉とその活動や運営方法を学びたいと思っていました。

日本とスリランカの保育園等における子どもの教育には大きな違いがあります。スリランカでは、小さい頃から外国語等の勉強に時間を使います。日本では、着替えや食事などの生活を通じ、子どもの自立を大切にしています。日本の良いところを、スリランカでの活動に活かしたいです。

また、高齢者施設や障害者施設でも研修しました。スリランカは、日本のように福祉サービスが充実していないので、研修で学んだ知識を持ち帰り、新しい福祉施設を創設したいと思っています。

日本人の言葉のなかには相手を尊敬する気持ちが感じられます。私は日本の文化が好きです。みなさん、一緒に優しい世界をつくっていきましょう！



**パドゥマさん**  
Suriyawewe Padumalankara  
(スリランカ)

修了式の後に開催した謝恩会では、5名の研修生が見学や研修でお世話になった方がたと再会し、日本での思い出や学び、母国に帰ってからの目標などの話題で盛り上がりました。本会国際交流・支援事業では、国際交流から得られる学びあいを大切に、今後もその輪を拡げていきます。



## たくさんの学び・気づきを各国へ

### — 第38期アジア社会福祉従事者研修 第2回施設研修、見学 —

#### 地域住民等との協力、連携

チョイさん（韓国）



第2回研修で心に残ったのは「人と人との関係を福祉の原点として、地域での生活を多面的に把握する」ということ。韓国での福祉事業でも大切にしたいです。

**第2回研修**：(社福)同愛会、(社福)すぎなみき会

**見学(2月)**：かながわ外国人すまいサポートセンター、(社福)中央共同募金会

#### 「共生」を実現する社会福祉

ファンさん（台湾）



後半の研修・見学で「年齢等の要件を問わない支援や居場所づくり」の大切さを学びました。台湾でも施設の役割や機能を地域へ広げる視点を持って活動したいです。

**第2回研修**：(社福)鳩谷福祉会、(社福)清流共生会

**見学(2月)**：(社福)ライフの学校

#### 傷ついた心をケアし信頼関係を築く支援

アイリーンさん（タイ）



関わった人たちの笑顔が心に残っています。心に傷を負った子どもと信頼関係を築く方法を学ぶことができました。その技術や工夫をタイに持ち帰り、心の支援を充実させたいです。

**第2回研修**：(社福)慈愛会

**見学(2月)**：豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

#### 施設間の協力による「途切れない支援」

ジョアンさん（マレーシア）



第2回研修で見た、施設間の強力なネットワークによる支援が印象的です。互いの強みを活かし助け合うことで、あらゆる人に対して支援を途切れさせることなく行うことが可能だと学びました。

**第2回研修**：(社福)常盤会

**見学(1・2月)**：豊島子どもWAKUWAKUネットワーク、ホームスタートこうとう、(社福)ライフの学校

#### 地域の高齢者に向けた活動の展開

パドゥマさん（スリランカ）



施設サービスだけではない支援も大切だと感じました。第2回研修で高齢者に向けた防寒着や食料品の移動販売、見学で地域の高齢者が集まる居場所づくりを学びました。協力者を集め、スリランカでも取り組みたいです。

**第2回研修**：(社福)天竜厚生会

**見学(1・2月)**：豊島子どもWAKUWAKUネットワーク、ホームスタートこうとう、居場所コム「こまじいのうち」、(社福)中央共同募金会

約11か月間の研修を通じ、多くの法人・団体・種別協議会等、福祉関係者の皆さまにご協力・ご支援をいただきました。各国の福祉事情の変化により、研修生たちの研修目的や学びへの期待も多様化しています。第38期研修生は、上記の研修・見学の他、研修生の専門に応じて全国厚生事業団体連絡協議会の全国会議（1月23～24日）にも参加させていただきました。今後ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 第39期アジア社会福祉従事者研修スタート

2025年3月12日、6か国6名の第39期研修生が来日しました。約11か月間の研修を予定しています。皆様からの温かいエールをよろしくお祈いします。

### 第39期生の紹介

<p><b>韓国</b></p> 	 <p><b>キム デゴン</b> (呼称:キムさん)</p> <p><b>専門</b> 児童福祉</p>	<p><b>台湾</b></p> 	 <p><b>ホワン イェンリン</b> (呼称:ホワンさん)</p> <p><b>専門</b> 児童福祉</p>	<p><b>フィリピン</b></p> 	 <p><b>デラ・クロズ エイプリル ローズ</b> (呼称:エイプリルさん)</p> <p><b>専門</b> 障害福祉</p>
<p><b>タイ</b></p> 	 <p><b>ピタパ サイチョン</b> (呼称:アイスさん)</p> <p><b>専門</b> 子ども、女性支援</p>	<p><b>スリランカ</b></p> 	 <p><b>サミーラ サンダン</b> (呼称:サミーラさん)</p> <p><b>専門</b> 児童福祉</p>	<p><b>インドネシア</b></p> 	 <p><b>ハディ ムハマド ノアール</b> (呼称:ハディさん)</p> <p><b>専門</b> 障害福祉</p>

### 第39期アジア社会福祉従事者研修 年間スケジュール

アジア社会福祉従事者研修事業へのご協力をよろしくお祈いします

2025/3/12(水)

**来日**

韓国、台湾、フィリピン、タイ、スリランカ、インドネシアより6名が来日!

- 3~6月:全社協で日本語学習
- 6月 :福祉施設等の見学(2か所程度)

7月中旬~8月末

**施設研修①**

研修生の専門分野、目的に応じ、日本の福祉施設で研修します

- 9月 :全社協で施設研修①の振り返り、次回研修に向けた学び・準備
- 9月 :福祉施設等の見学(2か所程度)

10月上旬~1月中旬

**施設研修②**

日本・母国の福祉に関する学びを深めます

- 1~2月:全社協で研修全体の振り返り、修了式に向けた準備
- 2月 :福祉施設等の見学(2か所程度)

2026/2/20(金)

**修了式**

- ①修了式15:30~17:00
- ②謝恩会17:00~18:00(予定)

2026/2/22(日)

**帰国**

修了生として、日本と母国をつなぐ役割へ...

本研修では、研修修了後にも「継続するパートナーシップを築くこと」をミッションのひとつと考えています。研修生の学びだけではなく、研修生と日本の福祉関係者が互いに学び合う機会を大切に進めていく予定です。

## ～ 日韓台会議、スタディ・ツアーを実施 ～

2024年12月3日から4日間にわたり国際交流・支援事業として日韓台会議とあわせてスタディ・ツアーを実施し、国際社会福祉基金委員会委員や国際交流・支援活動会員等17名の参加を得て、台湾を訪問しました！

### ★台湾にて2年ぶり第26回日韓台会議を開催★

12月5日、日本・韓国・台湾民間社会福祉代表者会議が台湾で開催されました。コロナが明け2年ぶり・第26回となる今回の会議は対面での開催となり、全社協、韓国社会福祉協議会、ICSW台湾の関係者をはじめ、国内外から福祉実践者や研究者など90名を超える方が参加、「コロナ後の新しい貧困」と題して各国から政策と実践の発表を行いました。

#### 政策報告：全社協 古都 賢一 副会長

複合化・深刻化する生活課題に対応し、生活困窮者支援を進めていくためには、制度・施策の充実とあわせ、地域のつながりの再構築、多様な関係者・機関の連携が不可欠である



#### 実践報告：社会福祉法人桃林会 副理事長 園田 裕紹 氏

主観的かつコミュニティとしての貧困への対峙策として、領域拡張性・自治独立性・幸福追求性の3要素が重要であり、それらの要素が社会福祉法人の活性化につながる



全体の質疑応答では、園田氏の所属法人が取り組む事業や地域の活動について質問が相次ぎ、参加者の興味関心が高いことが分かりました。

★修了生の所属団体について見て・聞いて学んだスタディ・ツアー★

アジア社会福祉従事者研修修了生の母国での福祉活動2か所を視察し、現地の支援者等との交流を通して、地域の生活課題や福祉活動について理解を深めるとともに、両国の福祉関係者による信頼関係の強化を図りました。

○大同育幼院（児童養護施設）：ホワンさん（13期）グーさん（20期）所属団体

虐待等の理由により社会的養護が必要な18歳未満の子どもたちに対して児童養護施設で安心して生活できるよう、一人ひとりのケースに合わせた支援を行っています。

○女性・子ども支援（林口サービスセンター）：ツァンさん（17期）マーさん（19期）所属団体

家庭内虐待を受けた女性や子どもを支援するため公営住宅を活用したシェルターや、子どもたちの心理的ケアを行っています。



● 大同育幼院 ●



● 林口サービスセンター ●

視察を行った2か所ともに共通して、修了生がソーシャルワーカーとして、入所児童や地域住民に対して、地域社会や専門機関とのつながりを構築するために活躍しており、日本の参加者にとってソーシャルワーク実践の学びを深める視察となりました。

★台湾(花蓮県)で発生した大規模地震での災害福祉支援活動を視察★

～全国老人クラブ連合会が活動支援のために寄付金を贈呈～

2024年4月3日に発生した台湾・花蓮県を中心とした大規模地震では死者18名、負傷者1,145名という甚大な被害が生じました。従前より国内外の災害福祉活動を積極的に支援している全国老人クラブ連合会（全老連）では、被災した高齢者等の支援を目的として、ICSW台湾に寄付金（1,000万円）を贈呈しました。

12月6日、全老連の役職員とともに、本寄付金をもとに展開されている花蓮県での支援活動を視察しました。



## 社会福祉分野での国際交流に参加しませんか —国際交流・支援活動会員のご案内—

全国社会福祉協議会では、国際交流・支援活動を支える「国際交流・支援活動会員」を募集しています。ご賛同いただける方は、ぜひ会員登録いただきますようお願い申し上げます。詳細は本会ホームページ（右記 QR コード）をご確認ください。



<https://qr.quel.jp/url.php>

### ■ 2024年度国際交流・支援活動会員にご登録いただいた皆さま

#### 【法人・組織会員、賛助会員】

恵の園（群馬県）、六親会（千葉県）、至誠学舎立川（東京都）、東京栄和会 なぎさ和楽苑（東京都）、東京光の家（東京都）、村山苑（東京都）、中心会（神奈川県）、小諸青葉福祉会 やまびこ園（長野県）、梓友会（静岡県）、天竜厚生会（静岡県）、福寿園（愛知県）、六心会（滋賀県）、夕陽会（京都府）、みねやま福祉会（京都府）、大阪自彊館（大阪府）、大阪府社会福祉協議会（大阪府）、堺暁福祉会（大阪府）、晋栄福祉会（大阪府）、成光苑（大阪府）、ふじ福祉会（大阪府）、あすなろ会（島根県）、クムレ（岡山県）、くすの樹会（福岡県）、慈愛会（福岡県）、肥後自活団（熊本県）、常盤会（鹿児島県）、公益財団法人 鉄道弘済会、一般社団法人 社会福祉懇談会  
その他、4法人

#### 【個人会員】（敬称略）

石井 謙次／栗和田 敏／小林 和弘／小林 大眞／小嶋 憲子／下山 當子／高山 科子／谷 由紀子／辻村 泰範／辻村 万里子／塘林 敬規／乗富 俊輔／松下 明／三上 智代／山本 たつ子／横内 定明／吉村 治 その他、10 名様（本会役職員含む）

#### 【育むプロジェクト支援会員】（敬称略）

石井 謙次／下山 當子／塚本 薫／津山市民生児童委員連合協議会  
その他、3 名様（本会役職員含む）

ご登録いただき、誠にありがとうございます。

## 令和6年度第2回国際社会福祉基金委員会を開催しました(2月21日)

委員会では、10月に開催したアジア社会福祉セミナー等の際に修了生、国内関係者から寄せられた意見を踏まえ課題を整理したうえで、各国とより対等な関係性の下、それぞれの福祉ニーズに基づく事業を継続していくために、今後の国際交流・支援事業のめざす方向性を検討しました。そのうえで、以下の点に留意し、各種別協議会等の協力を得ながら、令和7年度以降、段階的に事業を見直していくことを確認しました。

- ① 各国が学びあい、協力しあえる関係性をつくる、強化する
- ② 日本国内の国際交流・支援事業に対する理解、協力の輪を広げる
- ③ アジア各国の課題・ニーズに即した事業を展開する
- ④ アジア各国の社会事情、課題等を的確に把握する

このほか、「アジアの子どもたちに寄り添い、育む」プロジェクトや「修了生助成事業」について助成決定を行いました。

### 支援を行っている子どもたちへのメッセージを募集しています

「アジアの子どもたちに寄り添い、育む」プロジェクトでは、2025年度に5か国（フィリピン、タイ、マレーシア、スリランカ、インドネシア）・計34人の子どもたちへの支援を決定しました。ぜひ、日本の皆様からのメッセージをお寄せください。いただいたメッセージは、修了生を通じて子どもたちにお届けします。平易な日本語のメッセージであれば、修了生が母国語に翻訳して子どもたちに伝えます。イラストや動画でも結構です。以下の連絡先にお寄せください。

全国社会福祉協議会総務部国際福祉協力センター

TEL 03-3592-1390 mail z-kokusai@shakyo.or.jp

